

SCU学生による「今」を伝えるマガジン

SCUZINE

Sapporo City University Magazine

vol.
07
2024 Spring

魅力あふれる、
エスシーユージン
SCU人。



TAKE
FREE



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

SCU学生による「今」を伝えるマガジン

SCUZINE

Sapporo

City

University

Magazine

vol.
07
2024 Spring

デザイン学部

デザインの先に存在している「人」を、強く意識することを大切にしています。

イメージする「誰か」の生活を、地域を豊かにする。そのためにクリアすべき課題を発見し、アイデアと技術で目的を実現する。より良い社会を創っていくその力は、様々な分野で求められています。

気まぐれな芸術キャンパス。

これが私のデザイン。

椅子を造りました。

SAPPORO CITY UNIVERSITY
ART PARK CAMPUS

制作中...

いつも作業する、アトリエ。

冒険してみよう。

冬になると、卒業制作が並びます。

「真花」の足跡。

演習できる場が、充実。

看護学部

「人」に寄り添い、「人」を尊重し、確かな人間関係を築きながら、豊かな心を持って看護に臨むことを大切にしています。

「人を助けたい」「人にやさしくしたい」という心を根底におきながら、一方でプロフェSSIONナルとして冷静に物事を把握し、自分を客観視する能力を培っていきます。

課題おわりない……

人に寄り添う仕事。

すぐ隣には、実践の場。

まちの中にあるキャンパス。

SAPPORO CITY UNIVERSITY SOEN CAMPUS

CONTENTS

1. 学部生インタビュー

SCU生に聞きたい、SCUの魅力

デザイン学部 1年	中道 千尋.....08
デザイン学部 人間情報デザインコース 3年	中嶋 友哉.....10
デザイン学部 人間空間デザインコース 3年	小野 日大.....14
デザイン学部 人間空間デザインコース 3年	小林 雅果.....16
看護学部 2年	上地 あかり.....18
看護学部 2年	武富 彩加.....20
看護学部 3年	安達 陸斗.....24
看護学部 3年	大木 風香.....26

2. 教員インタビュー

SCUだからこそできること

デザイン学部 人間情報デザインコース	細谷 多聞.....28
デザイン学部 人間空間デザインコース	須之内 元洋.....32
看護学部 成人看護学領域	卯野木 健.....34
看護学部 基礎看護学領域	武富 貴久子.....36

3. 卒業生インタビュー

社会で活躍するSCU生

デザイン学部 旧メディアデザインコース卒業	Yes! アキト.....40
デザイン学部 旧メディアデザインコース卒業	八木橋 ひかり.....42
デザイン研究科 人間空間デザイン分野修了	片桐 由貴.....42
デザイン学部 人間情報デザインコース卒業	齋藤 来睡.....48
デザイン学部 人間空間デザインコース卒業	吹上 実来.....50
デザイン学部 人間空間デザインコース卒業	西内 寛大.....52
看護学部卒業	若本 隆貴.....54

魅力あふれる、
SCU人。
エスシーユー

対談

コンペの原動力、SCUの魅力、高校生へのメッセージ

なかみち ちひろ
中道 千尋

SCUに入る決め手は、ボールペン!?

SCUに入るまでの悩み

では、自己紹介の方をお願いします。/デザイン学部1年中道千尋と申します。好きなことは絵を描くことで、もう1つは食べることです。/デザイン学部1年生ということですが、なぜこの大学を選んだのですか? /私が高校2年生の時に、この大学の細谷多聞教授(P.28)が来校されたのですが、そのときに1本のボールペンについてお話をされていたんです。そのお話が面白くて、「この部品は何のためにあるのか、1つ1つ理由があることを説明してくれて、自分の気がつかなかった部分とか、「そんな意味があったんだ」と思うと、世界が広がった気がして。「この先生がいる大学ってきっと面白いんだろう」と思ったことがきっかけです。/では細谷先生がきっかけということですか? /そうそう。/元々芸術系の大学に行きたいと思ってたことですか? /いや、そうでもなくて。実は薬剤師になろうと思ってたんです。めっちゃ勉強もガリガリやっていたのですが、何か違うというか、中学校を卒業するときに、担任の先生に「ちひろっぴ薬剤師っぽくないね」と言われたり。しかも、絵を描くことも好きだし。でも、「将来が不安定だ」とか周りに言われていて。だからちょっと自信がなくて、とりあえず副業でやろうかなとか思っていたんですけど、やっぱり一度きりな人生、好きなことをやった方がいいかなと思って、それができるような大学ということで、SCUに入学しました。

SCUに入ってわかったこと

普段どんなことを学んでいますか? /なんだろうな。技術的なPhotoshop(adobe画像編集ソフト)などの使い方もそうだし、先生に質問したりしてプログラミングを教えてもらっています。アイデアの出し方や普段の日常生活を見て、色々なことに目を向けながら歩くことが大切だということを教えてもらったり。/どんなことを学んで楽しいと感じますか? /同じ志を持っている人がいるので、友達に直接「これどう?」「どうして見つけたの?」とか「なんでこうやって考えたの?」とか聞いて、教えてくれた考えが自分の思いつかなかったこともあるので面白いと思います。/確かに。逆に大変だなと思うことはありますか? /アイデアが出ない時がやっぱり一番大変というか。考えても考えてもいいものができなかったり。あと、私は色々興味がありすぎて、なんでもかんでもやろうとするんですけど、そうすると予定が大変なことになってしまい、最終的に爆発します。/大変ですね。ちなみにアイデアが出ない時はどうしていますか? /とりあえず手を動かします。思ったことを紙に書き出して、そこから連想してみたり。あとは一旦考えるのをやめて散歩したり。困ったら風呂に入る。風呂に入るか、誰かに相談する。とりあえずアクション、アクション、アンドリラックス。/その相談相手というのは、先生や友達? /基本友達ですかね。先生となるとどうしてもきっちり連絡しなければいけないのですが、友達だと気軽に質問できるので。



コンペに対する情熱

工藤

今まで挑戦したコンペは?
*コンペ:コンペティション
一定の課題を出して複数の提案を競わせること

中道

4月ごろに狸小路地区のコンペがありまして、イラストを出してその作品は優秀賞になったんです。

工藤

他にはなにか応募しましたか?

中道

地下鉄ポスター、ゲームのキャラクターコンペ、札幌市医師会のキャラクターコンペなどです。

工藤

すごいですね。沢山のコンペをこなす原動力は何ですか?

中道

自主的に挑戦していく姿勢にワクワクしますね。あとは、賞金がいただけなんです。

工藤

普段何もなくても「あ、やりたいな」みたいなになるということ?

中道

コンペで入賞するために完成度の高いものを作ることで、自分の作品のストックやパリエーションも増えます。たくさん入賞して、賞金をもらいたいです。目標獲得金額はトータルで百万円です!

中道

お金は旅行するために欲しいんですけど。旅行って日常から離れるわけじゃないですか。日常から離れて、そこでまたインスピレーションを受けて、自分の作品に活かしたいという思いがあります。

SCUの魅力

工藤

この大学の良いところは?

中道

少人数だからこそ、先生との距離が近いところだと思います。やっぱり規模の大きい大学だと人数もたくさんいて、先生との距離が遠いのかと思っていて。ゼミの人数なども多いだろうなと思います。この大学は学年も人数が少ないので、授業で顔を合わせる回数が増えたりします。だから親密度が高くなるのが魅力なのかなと思います。

中道

あとは、先生が優しいとか。治安が良い。財布が盗まれない。前に大学のセイコーマートのコピー機の上に財布を忘れたんですけど、ただと盗まれなくて、誰かが届けてくれていて。

工藤

最後に将来に悩んでいる高校生へメッセージはありますか?

中道

自分の好きなことをすると良いと思います。

工藤

なるほど。

中道

親は心配してくれると思うんですけど。クリエイターとか大丈夫なの?とか。私も帰省すると言われて、だけど、そんなことは知らないです。若いうちにやりたいことをやった方がいい。

工藤

ありがとうございました。



▲コンペ用に作成した作品



▲学校祭・似顔絵イベントの作品



▲おすしピアス (詳しくは Instagram にて)

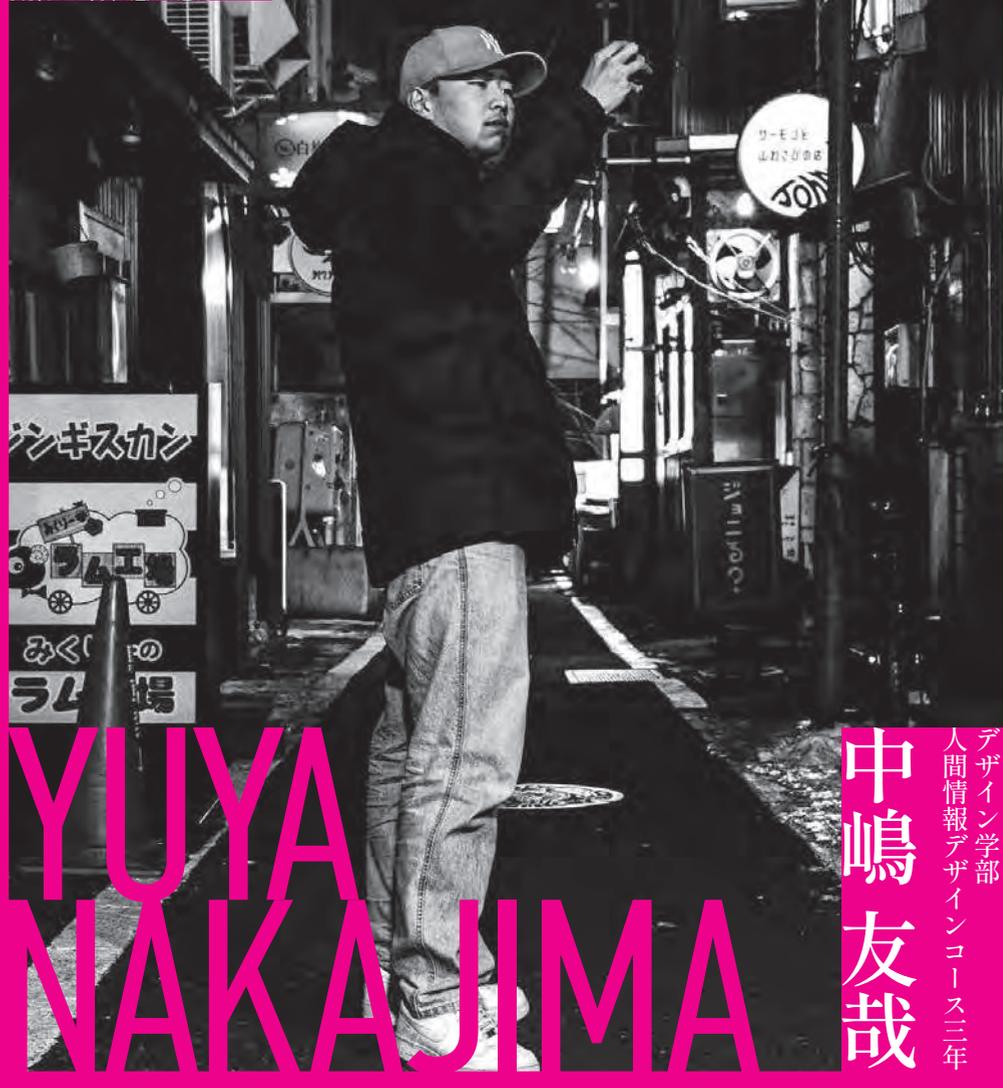


MOGUPPI_MINITYUA

SELF-EXPRESSION THROUGH PHOTOGRAPHY

写真という、自己表現。

写真を表現手法として追求し、大学から精力的に活動する中嶋友哉さん。写真に興味を持ったきっかけや自身の写真観、そして、モノクロ・シブすぎる友哉さんの写真の魅力に迫る。



デザイン学部
人間情報デザインコース三年
中嶋 友哉

YUYA NAKAJIMA

写真に興味を持ったきっかけ

友哉さんは大学に入る前から、写真をやりたいと思っていたそう。「でも、カメラは高価だし、買ってもハマらなかつたらどうしよう、というくすぶりもあり、手が出せずにいた。」と話す。本学では一眼レフを借りることができる。入学して1年生のころは、よく大学の Nikon Z5（一眼レフ）を借りて写真を撮っていたとのこと。帰省するときにカメラを持っていて、地元北見のシャッター街を撮ったり。はじめはカラー写真を撮っていたが、徐々にモノクロ写真撮影を始められる。



▲ 友哉さんの撮ったモノクロ写真



▲ 愛用のデジタルカメラ「RICOR GR III」

モノクロへのこだわり

「モノクロ写真のどんなところに惹かれたのか?」という質問に、友哉さんは「やっぱり、情報整理が楽だから。」と、シンプルな構図や写真1枚のバランスが、モノクロの方が綺麗に出るらしい。さらに、その根底にある「realとfake」について語ってくれた。

写真はfake なのでは、というのが現段階での友哉さんの考え。誰でも簡単に加工できるし、編集できる。友哉さんの撮るモノクロ写真はハイコントラストで明瞭度マシマシ、だからrealではないとのこと。「現実をそのまま写すのは面白くないというか、現実の好きな部分だけを写したい。自分の場合は「形」と「テクスチャ」。モノクロは形が際立つ。明瞭度を上げればテクスチャが際立つ。モノクロは色情報からの逃げではなく、「現実の好きな部分だけを楽しむ」ことに対する答え。」

美しい風景をおさめた綺麗な写真は SNS でもよく見るが、友哉さんの写真はそれとは根底から違うような気がする。モノクロ写真はカラー写真ができる前の表現方法だが、自由に色を使うことができる今、あえて白黒の表現で挑むこと。ただのこだわりだけではなく、その奥にある自身の写真観を聞くことができた。

▼ 行きつけの喫茶店で自身の写真観について語る友哉さん



ストリートスナップとは

友哉さんが写真を撮りに行くときは、「何かを撮ろう」と思っただけで、場所に応じて準備して行くことが多いというイメージだったが、友哉さんの場合は、愛用のデジタルカメラ「RICOR GR III」のみ。あとは予備のバッテリーや、小型のストロボなど。基本はウエストポーチくらいのサイズに収まる装備で行くようだ。「なぜ準備しないで行くのか」と聞くと、「狙って撮りたくない」からとのこと。もちろん、フットポットのようなところに行くこともあるそうだが、「ストリートスナップの醍醐味は、現場で意図された風景ではなく、その場で自分が感じたものを撮ること」と語る。

BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHY

札幌で撮ることの意味

1. 学部生インタビュー

昨年末に東京にストリート写真を撮りに行った友哉さん。東京で撮った写真をまとめて写真集「TOKYO COMPLEX」を制作。授業やゼミだけではなく、個人としても精力的に活動している。東京で撮った写真を見せてもらった。どれも最高にカッコよくて、友哉さんらしい写真だと思えたが、自身はあまり納得がいかないという。なぜなのかを聞くと、「札幌では俺らしい写真が撮れた。でも、東京で撮った写真を帰ってきてから改めて見ると、なんか観光客みたいな写真ばかりだった。そこがちょっと悔しいというか、東京では俺らしい写真が撮れなかった」とのこと。札幌だからこそ撮れる「俺らしい写真」、東京で撮ることで再認識した「札幌で撮ることの意味」についてお聞きした。



▲ 東京に行って撮った写真を
もとに制作した写真集「TOKYO COMPLEX」

に道が入り組んでいたり、ビルの高さも揃っていないけど、コンクリートジャングルで感じ。だから、これまでは東京に対してコンプレックスのようなものを感じていた。でも、今回東京のまちを歩いてみて、「東京にはないものが札幌にもあるな」と思った。それが何かはまだわからないけど、じゃあ俺は札幌をどう撮るべきか、ということを考えるようになった。やっぱり土地として札幌が好きだし、これまでずっと東京に憧れを持ってきたけど、それを超える札幌の魅力を、俺は知っているかもしれない。」

身近に生の自然があることも、札幌の魅力のひとつだと話す。S・C・Uの芸術の森キャンパスも、山をつらぬく「スカイウェイ」などの構造が自然を生かして建てられている。友哉さんの言葉を借りれば「自然にお邪魔させてもらっている。キャンパス、一年生の授業「時間表現理論 演習Ⅰ」では芸術の森キャンパスをフィールドに写真を撮る演習があり、それをきっかけに写真に興味を持つ学生も多い。」

@_nakajima_yuya



友哉さんの作品や活動は
X (旧 Twitter) から

取材では実際に札幌すすきのを歩き、写真を撮った。友哉さんはデジカメとフィルムカメラなどの軽装備で、歩きながら目に留まったものを「スナップ」していた。印象に残ったのは、撮ろうと思ってからシャッターを切るまでとてもスムーズだということ。それでいて撮った写真はしっかりと水平・垂直が取れている。基本的なことができるからこそ、そこから外したものにも説得力があるのだと感じた。

▼すすきのを歩きながら写真を撮る友哉さん



▶すすきのの街角で撮った写真



なぜ友哉さんの写真は魅力的なのか

取材を通して深掘りした、友哉さんの写真に対する思いや、自身の写真観。改めてその写真を見て、クールなモノクロの魅力に痺れる。常に自分の表現と向き合い追求し続けるからこそ、表面的な良さではなく、その奥の思想と表現に心をつかまされる。写真集の制作や個展の開催などに加え、最近ではSNSで繋がった写真仲間とイベント運営やアートディレクションなどしているとのこと。これからのさらなる活躍に期待したい。

Sapporo City University

愛機は赤のプレジジョンタイプのベース


 建築
×
音楽

Architecture
Music


テクノポップユニット「TPF」での演奏風景

ギターやベース、ドラムに加えPA（ライブなどの現場で音響を担う役割のこと）の知識もあり、マルチな経験を持つ小野さん。O.S.に影響を受けた小野さんは、物置に放置されていた弦の錆びたアコースティックギターを中学三年生のときに弾き始めた。バンド活動の始まりは大学に入学してからだ。それまでは自分一人で曲を再現して遊んでいたように、軽音楽部の運営を意識してPAについて学び始めたのは大学一年生の頃だ。「活動して、いない間に部費が使われずに貯まっていたので、機材を揃えるにはチャンスだと思った。」本学の軽音楽部「O.S.」は大学祭を中心にたくさんバンドがライブに出演し、盛んに活動している。新型コロナウイルスの影響で思うような生活を送ることが出来ず頼れる先輩もいない中、小野さんを含めた軽音楽部の先輩が立て直した。



昨年7月の学内ライブの様子

「授業だけではなく他の活動も取り組む」と語る小野さんは同じ建築コースの仲間とコンペ（コンペティションの略）にも応募している。モルモットの遊具を提案するコンペで小野さんたちは「モルモットが過ごす空間自体」をテーマに作品を作った。「自分たちの思い描いていることを反映出来た」と仕上がりは満足いくものだったそうだ。自由な発想が求められるデザインの現場において、型にはまりすぎないのは大切なことなのかもしれない。「この学校はコンペなどの情報提供が多いので、何でもやってみるといいます。授業だけ受けて過ごすのは勿体ない。」

Course of spatial design for human life, architecture 3 Ono Haruto

 小野
日大
Ono Haruto


建築の模型作品

本学のデザイン学部の人間空間デザインコースで建築を学び、軽音楽部などサークルでも活躍する小野日大さん。建築士の資格を取得するために大学院進学も視野に入れている。建築との出会いは、小学生のときにゲーム『マイクラフト』で家を作っていたことだという。またフランク・ロイド・ライトによる名建築『落水荘』の写真を見て感動し、建築士という将来の選択肢を考え始めた。「この大学のいいところは色々なことを広く学べるところ。経験豊富な先生も多く、建築以外のことも沢山学べるし自分自身の視野も広がります。」



クラブルームAのドラムセットは小野さんの私物だそう



ポスター制作のための写真撮影



取材中ギターを構える小野さん

Q&A

好きなことは何ですか？

入学をSCUに決めた理由はなんですか？

小林 元々インテリアや空間デザインに興味があり、自分が本当にやりたいことが明確にまだ決まっていまへんので、色々な学校を見ると、一年生の頃から建築などのコースに分れる所が多いのですが、SCUでは一年生の時は基礎で、後からコース分かれる形式なので、「ここだったら二年生の時に好きなことを見つけて、二年生で進む道を決められるかな」と思いました。それが大きな理由です。

小林 カフェにフラットと二人で行って空間を見たり、お血を見たりする事が好きです。元々ファンだったカフェでバイトをしています。

小川 素敵ですね。

小林 自分が好きだった空間で働いているというのが楽しいです。建築や空間を学んでいく上で、カフェの設計や空間に興味があったので、楽しみながらも勉強する事ができています。そこで人がどういう行動をしているかなど建築系の分野だけではなく、地域コミュニティも関わってくるので、良い経験になっています。

小林 三年前期にやったSDGs促進の課題です。睡眠時間を削って課題に取り組みくらしいに本当に楽しかったです。人間空間デザインコースのなかでも建築分野と地域分野があるのですが、そのときは建築分野を学んだのち地域分野に移動しました。地域分野でも建築の要素を入れたくて、実在する空き家を対象にリノベーションの設計・提案をしました。また、カフェやお菓子作りが好きなので、格

外野菜や地元の食材を使用して食品ロスを減らすことができないうか、ヒト・モノ・コトが絡み合うビジネスモデルについても考えました。

楽しかった課題は何ですか？



授業で制作した椅子

今学んでいることは何ですか？

小林 自分の興味が色々たがっていたので、建築と地域のコースを歩き来しています。学ぶ中で、自分の認識としても地域と建築どちらもできることを強みにしていきたいと考えています。

小川 地域と建築を行ったり来たりというのは、具体的にどういうことですか？

小林 二年生から始まるデザイン総合実習という授業に關してです。地域と建築はコースが分かれたあとはそのまま同じコースで学ぶことが基本ですが、私は二年後期で地域から建築に移動し、三年前期にもう一度地域に移動し、その後再び建築に移動しました。三年生は前期で前半と後半に課題が分かれているのですが、建築分野を選択した人は、基本的に移動することはありません。しかし、その期間に地域から建築に移動することは可能で、二年間通して分野を歩き来することは制度的に可能なことなんです。

小林 雅果

デザイン学部
人間空間デザインコース
三年



建築 × 地域

学びたいことを、 ぞんぶんに。



小林さんが見せてくれたポートフォリオ。地域×建築というオリジナリティあふれる作品が多数。

小川 SCUの魅力は何だと思えますか？

小林 魅力はアットホームなところ。本当に他の大学ではないんだろうと思うくらいに、先生をはじめ同級生や先輩、後輩もすごく優しい人たちが集まっています。先生方は研究などで忙しい中でも「わからない事があれば来てください」と声をかけてくださいます。片山先生は一年生の頃から様々なことを相談していたので、この間話した時には「成長したね、大きくなったね」と子供を見るような感覚で声をかけてくれました。他の学校だと、ゼミに分かれると基本的にその先生につきまうだと思えますが、この学校はゼミに配属されてからもいろいろな先生のところに行くことができます。そこは絶対にこの学校ならではの強みだと思います。

地域と建築を行ったり来たりできるということは、今までやつてきた人もいないのであまり知られていませんが、私はどちらの分野にも興味あるので、幅広く好きなように学べるところがSCUの魅力だと思います。

小川 将来について、今はどのように考えていますか？

小林 色々やってきたなかで自分の好きなことがたくさん見つかってきて、今度はそれをさらに学び、自分の強みを絞っていきたく思っています。インターンシップに行った際に取り組んだ動画制作など、人間情報デザインコース寄りのことを含め様々なことをできるようにしていきたいです。

SCUの看護学生生活

悩んだり考えた分だけ、

誰かのためになって喜んでもらえるって嬉しい、

だから、看護って楽しい。

上地あかり



“実習は怖くないよということは

入学するみなさんに伝えたいです”



看護学生が通う桑園キャンパスの周辺を散歩しながら聞く、看護学生のあれこれ。

転機は看護実習

今は無くなってしまったのですが、看護師と保健師の資格が大学四年間のうちにどちらも取る事が出来るからです。高校生の時進路を決めるのに、まだ看護という分野で具体的な将来が決まっていなかったので、選択肢が広い点が良いかと思っています。

二年後期にある実習が私の「看護」という仕事に対する気持ちを大きく変えてくれたきっかけでした。私の場合、一人の患者さんを三週間ほど受け持ち、回復までサポートすることができたので、やりがいを感じました。看護の力で人はこんなに変わるんだと感じることができた場でした。実習先の環境もとても良かったのがプラスになったのだと思います。看護の仕事で実際に現場に立って思うことは、悩んだり考えることもたくさんあるけれど、それが誰かのためになって形になって喜んでもらえることが嬉しいし、素敵なことだなと思っています。

「真花」への愛

週に二、三回、よさこいソーラン祭りや大学祭に向けて活動しています。とにかく仲良しで、学部も学年も超えてつながっているのがすてきなところです。わたしは今、後輩が可愛くしょうがないです(笑)。課題や実習で疲れている時に、真花に行くと、顔を出しておしゃべりするだけで、元気を貰えて頑張ろうと思える場所なんです。サークル活動が、わたしにとって息抜きの存在になっています。(左写真では両手で花を作った真花ポーズを披露してくれました。)

これからトライしたいこと

様々なインターンシップを経験して、自分に合った環境を見つけていきたいと思っています。実習で得た学びでもあるのですが、環境というのは大事だということを知って、様々なインターンシップ先に飛び込んで自分らしく働ける場所を探したいと思っています。今は看護師の方向性ですが、保健師や養護教諭などまだまだ興味がある仕事がたくさんあります！学生のうちに、たくさんのご経験を通して成長していけたらと思っています。

SCUに入学した理由は？



“真花ってあたたかいです。”



サークルが息抜きの場所になっています。”



看護学部って、一日に授業がたくさん入っていることが多いですね。

そうですね、実習の期間は授業ができませんので、そのぶん他の時期でまとめて授業があります。なので、一限(50分)から五限(180分)までつめつめに授業がある日もあります。

授業ではどんなことを学んでいるんですか？

医療や看護に関することはもちろん、コミュニケーションについても学んだりします。

そうなんですね。授業は講義形式ですか？

講義と演習があります。講義で知識を学んで、演習でその実践をします。

コミュニケーションに関する演習という、例えば？

例えば、対面向き合って話しやすい角度と、うつものがあるんですね。面と向かって話すと患者さんも緊張してしまうので、少し角度をつけて話したりします。

なるほど、そういった演習は学生同士で練習するんですか？

そうですね、学生同士で行うことが多いですが、たまに模擬患者さんが来てくれたりもします。模擬患者さんの悩みを聞いたりしながら、コミュニケーションを実践します。

そうやってコミュニケーションの勉強をしているんですね。僕はコミュニケーションが苦手なんです、相手が話したことに対して、オウム返ししかできません。

オウム返しもとても大事ですよ。「ちゃんと聞いているよ」と意思表示をする、コミュニケーションの技術のひとつです。なるほど、参考になります。

ある授業の部のあ

看護と演習のあ



毎日の生活
看護生活

看護学部二年
武富彩加

聞き手
デザイン学部3年
林 港人

授業、実習、アルバイト、毎日忙しそうだけど、いつでも笑顔な武富さん。その元気エネルギーはどこから来るのか、看護学生の生活や実習についてなど、雑談混じりにお聞きしました。

大学生活は楽しですか？

はい、楽しいです！

授業もたくさんあってアルバイトもしていたら忙しいですね。アルバイトは何をしているんですか？

居酒屋で働いています。でも授業がない時間もあるので、その時間に友達とご飯に行ったりもしますよ。

看護学部がある桑園キャンパスは、街中でお店もたくさんありますよね！デザイン学部の芸術の森キャンパスは自然のなかにあるので、お店はあまり無いんですね。近くにイオンがあるのがすごく羨ましいです(笑)。

アルバイトは週にどのくらい入っているんですか？

だいたい土日と平日に1、2回くらいですね。

そうなんですね。授業もアルバイトも頑張っていて、本当に偉いです。

大学生活と アルバイト

SCU生に聞きたい、SCUの魅力
デザイン学部の人から見ると「看護学部といえば実習」というイメージがあります。

1. 学部生インタビュー
一年生のうちから実習があるというのは珍しいみたいですよ。他の学校だと二年生から実習が始まって、夏休み中も実習があるということも聞いたりします。

そうなんですかね。どのくらいの期間実習先に行くんですか？

だいたい二週間です。二年生では一年に二回で、三年生になるともっと増えていきます。四年生になると一ヶ月の実習というものもあります。

大変ですね。実習ではどんなことをするんですか？

二年生になると実習で受け持ち患者さんができます。その患者さんには何か必要かを考えたり、どうすれば健康になることができるかを考えて計画を立て、実践します。

どんなことを考えるんですか？

例えば、食事ですね。あとは、リハビリのことも考えたりします。

患者さんと一対一で話すのは、緊張しますか？

最初はすごく緊張しました。入院している患者さんは体調も優れないことが多いので、話を聞かせてもらえないこともありましたが、でも、手術が終わると患者さん笑顔を見せられるようになり、話をすることができて、終わってみると、実習は楽しかったなと感じます。

それは貴重な経験ですね。どんなことが楽しかったんですか？

だんだん患者さんとの関わり方がわかっていくのが楽しかったです。考えて計画を立て、ケアをすると患者さんが喜んでくれて、初めは「自分は学生なんだし、腰を低くして臨まなきゃ」という気持ちがあつて、会話もあまり弾まなかったりするので、それが間近で看護師さんの仕事ぶりを見ることができると、それを真似してみたり、試行錯誤しています。

課題は大変？でも楽しい？

逆に、どんなことが大変ですか？

記録を取ることですね。実習中だけではなく、家に帰ってから記録をまとめたりします。また、授業で勉強もしていますが、やはり実際にやってみると新たにわからないことが生まれたりするので、それを勉強するのに時間がかかります。

なるほど。大変なことあれば、そのなかにやりがいや楽しいこともあるんですか？

この大学の人は学生も先生もみんな優しくて、それが救いになったりもするんです。

確かに、看護学部の先生は優しい人が多い印象があります。以前看護の先生に取材をしたときも、帰りにお菓子をくれたりしました。(笑)

そうなんです。だから実習も全然怖くなくて、悩みがあるとすぐに話せます。的確にアドバイスをくれますし、知識経験が豊富な先生ばかりなので、とても頼りになります。



将来やりたいこと

看護師の仕事って、大変ですね。でも僕の看護に対するイメージに反して、武富さんはすごく楽しんでますね。

入学したての頃は私も不安でした。でも、実習も見学から始まりました。徐々に受け持ちができるようにサポートしてくれるので、今となってはそれほど不安に思わなくて良かったです。

卒業後はどのようなところで働きたいと思っていますか？

卒業後は、地元で病院に就職したいと考えています。まずは自分の目の前にいる患者さんかまっとうと健康になれるたり、もっと楽しく生きられるようなお手伝いができたらなと思っています。保健師の資格も取りたいですが、助産師の資格も取りたいんです。一番は助産師になって、産婦人科で働きたいです。

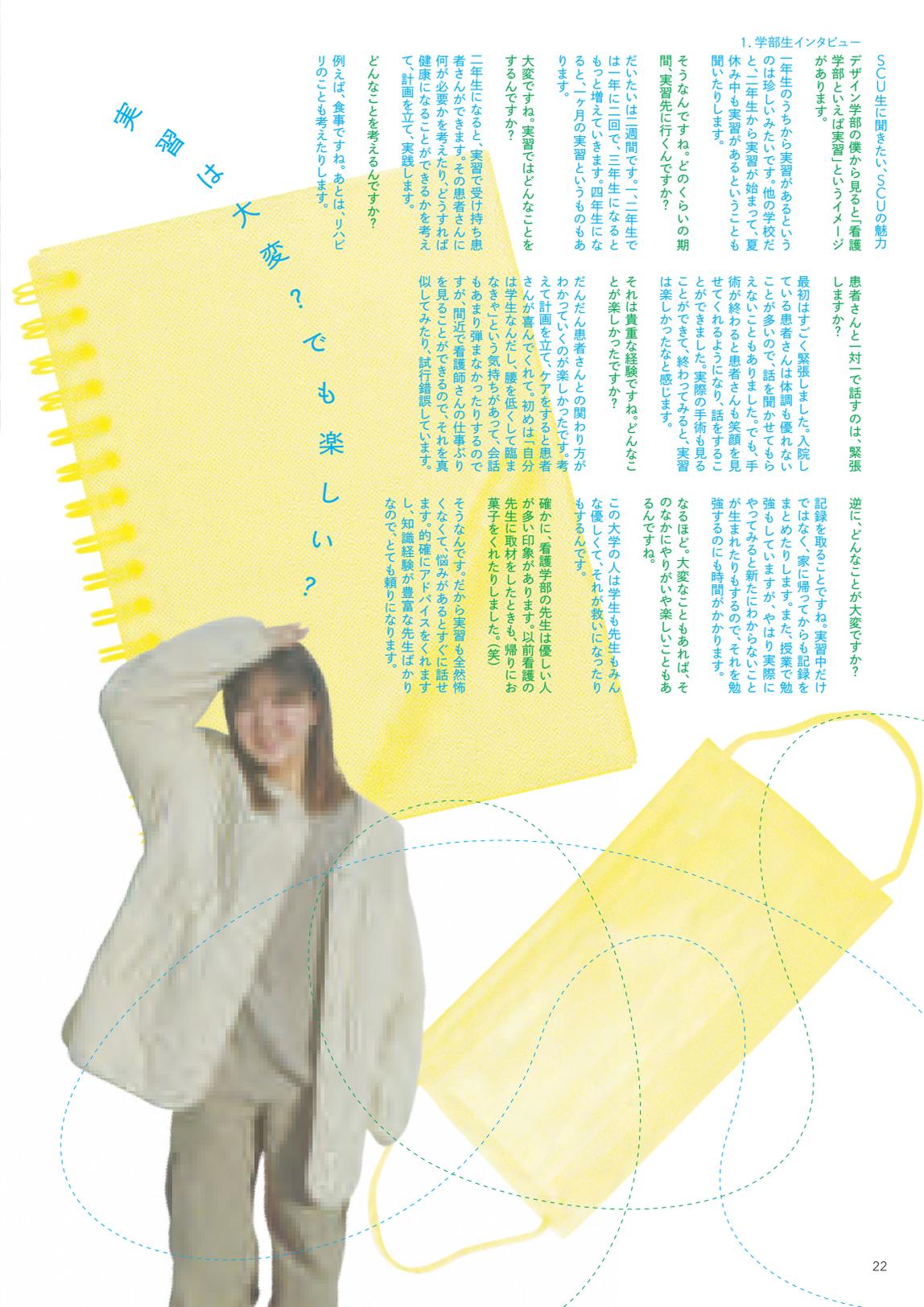
そうなんです。具体的な目標を持っていて素晴らしいです。

働く場所は病院だけではなくて、色々あるんです。保健師や助産師もそうですし、企業や地域の施設、美容クリニックに就職する人もいたりします。

そんな道もあるんですね。働き方もどんどん柔軟になってきて、デザイナーが病院に関わることもあるというところも聞きました。病院内のサイン表示などを高齢者の方でも見やすいようにデザインしたり。いつか僕がデザインの仕事で実績を積んだら、武富さんの職場もデザインさせてください。(笑)

はいぜひお願いします。そんな関わり方も、この大学ならではのですね。デザイン学部と看護学部という組み合わせは、他の学校でもあまりないと思います。

確かにそうですね。そんな繋がりも大事にしていきたいです。



看護学部三年

ADACHI RIKUTO 安達 陸斗

Faculty of NURSING

看護学部とデザイン学部

異なる分野との「共創」とその難しさ、やりがい

SCUに入学を決めた理由は？

入学前から看護師になりたいと思っていて、この大学はOSCE (P.57)という地域住民が協力して演習を行う制度など、学習機会の面ですごく魅力的だと感じていました。また、他の学校では看護学部と医学科や、看護学部のみなどが多い中で、デザイン学部もあるという独自性に惹かれました。デザイン学部の人は看護学部と全く違う考え方の人が多いし、色々な人が集まるので、そういう人たちから意見を聞くことによって、自分の見聞を広げられるかなと思ったんです。コミュニケーションのなかで、人の意見から「あ、こういう考え方もあるんだ」と発想が開けたりするところに興味があり、それが看護の分野でも生きています。

DESIGN X NURSING CO-CREATION



僕は人とコミュニケーションをとることが好きなので、人と話すことやコミュニケーション技法について興味があります。看護師の仕事は、医師と違って病気を直接治すわけではなく、その周りのことをさまざまな面でケアするので、そのなかでコミュニケーションはとても大切です。年齢によってもどのように話すのが良いのかは違っていて、例えば高齢者に対して話しかけるとときには「〇〇さんは今までこんな人生を送ってきた、それはとても素晴らしいことだと思います」というように人生を認めてあげるような発言をすると、より信頼関係を作ることができたりするんです。そのように、症状や年齢など患者さんを取り巻く色々な要素や環境に応じて、それに適したコミュニケーションをとることが看護師という仕事のなかで大切なことだと思っています。

COMMUNICATION AND NURSING AS A CAREER
コミュニケーションと看護という仕事

INTERVIEW 看護学生が伝える

SCU看護学部ってどんな学部？

看護学部って、やっぱり大変なイメージがあるという人も多いと思います。実際、実習期間は大変なことも多いですが、看護師や先生もその大変さを理解しているので、最大限サポートしてくれたり、大変な自分の力になって成長できることや、逆に言えばその達成した、やりきったなという気持ちもすごく大きかったりします。

実習期間以外はネイルも髪色も全然自由にできるんです。そこは大学と専門学校で結構違うかも。自分も金髪にしてイメチェンしたら、先生に「陸斗君、いい感じだね。」と言われたり(笑)。

大学生生活はやっぱり、自分次第でいくらでも頑張れるし、楽しめると思います。周りの友達も、この学校に来て失敗だったという人はいない。改めて、この大学に入って良かったと思います！

Sapporo City University

学部連携演習

デザインと看護の連携活動

連携授業を通して感じたデザインと看護の考え方の違い

林 学部連携演習では、同じグループで一緒に地域課題に取り組んだね。そのなかで、取り組みに対するデザイン学部と看護学部の考え方や方法の違いというものを、改めて考える機会になったと思う。

安達 デザインと看護では、考え方はやっぱり違う。でも、やっぱりその違いを俺は楽しみたいという気持ちがあったな。

林 わかる。自分も初めは、一緒にやるには自分の考え方も変えることで、うまく「はめて」取り組む方がいいのかなと考えていたけど、いざやってみると、やっぱり全然考え方が違う。だから逆に、自分の考えは変えずに、合うところを「合わせて」取り組むことが大切だということを学んだ。

安達 そうだね、デザイン学部の学生は「まずやってみよう」だけど、看護の学生は計画を立ててから動くというような感じだったね。でも看護は命を預かる仕事だから、そういう考え方であることは間違いない。計画を立てずに患者さんのケアをする訳には行かないから。

林 そうだね、どちらの考え方も大事だと思う。考えが違うのは当たり前前で、それを考える必要はない。変えなくても、合わせられる部分を合わせて一緒に取り組むことが必要なんだということが、この活動を通してわかった気がする。

安達 それが多分、学部連携の狙いなんだろうね。

林 うん、そういうことだね。デザイン学部は柔軟な発想の人が多いと思うから、あまりしがらみなくアイデアを広げる感じで、逆に看護学部は、その発想に対して客観的に評価をしてくれるなと感じた。デザイン学部だけで考えていると視野が狭くなりがちなんだけど、そこを看護学部が「歩引いて見てくれる」というのが、アクセントとブレッキミみたいな感じにうまく噛み合っていたなと個人的には思う。

安達 いや、本当にそれはもう、デザインの人が最初に頑張ってくれたから、アクセントを踏んでくれないと、ブレッキミが機能しないからさ。

林 でも、アクセントだけじゃ事故つちやう。(笑)どちらも大事だね。

安達 それを学ぶことができたという点で、うちの活動だったんじゃないかな。

違いのなかで見つけた共通点

ADACHI RIKUTO

林 患者さんの体を気遣うことって、看護師という仕事だからこそできることなんだね。

安達 病院には色々な職種の人がいって、それぞれに役割がある。病気を治すお医者さんのほかに、薬剤師さんとか、退院後の支援をするソーシャルワーカーさんとか、看護師はそういった人たちの橋渡し役をする。例えば、お医者さんが患者さんに病気を説明をしたあとに「看護師さんがさっきの説明、わかりましたか？」とフォローをしたり。

林 なるほど。そういう意味では、デザイナーと少し似ているかも。デザイナーも色々な職種の人と関わったり、顧客と製造者の橋渡しになったりすることもある。

安達 あと、正解がないというところが似ているかも。患者さんとのコミュニケーションは正解がない。勉強してもそれが役に立つときもあれば「立たない」ときもある。

林 確かに、デザインの仕事もクライアント(お客さん)に満足してもらえないかは提案するまでわからなかつたりするね。

安達 でも、その正解がないというところが楽しさのひとつでもあるかも。

林 そうだね、俺もそう思う。

異分野との共創

CO-CREATION WITH DIFFERENT FIELD

HAYASHI MINATO

林 港人 安達 陸斗
DESIGN X NURSING DIALOGUE
看護学部 デザイン学部

大学での学び

札幌市立大学の魅力、特徴は どのようなところにありますか？

「OSCE制度」(P.56)と言って、市民の方に模擬患者となってもらい、学生の看護技術に対してフィードバックをいただける仕組みです。客観的に自分に必要とされている臨床能力を知る事ができるので、自分の技術力、意欲の向上につながりました。

デザインと看護の連携で 得られたことは何ですか？

デザイン学部と看護学部の異なる専門性から生じる見方の違いを知り、視野を広げることができました。ディスカッションなどにおいて、物事や事象に対する視点の違いをたくさん感じることができました。また、ホスピタルアートなどデザインが医療と調和することによって、とても良い効果をもたらすと知ることができました。

看護と両立して

課外活動は何をされていますか？

双子の兄と社交ダンスをしています。全日本強化選手としてトレーニングに励んでおり、全日本大会では準優勝したこともあります。

始めたきっかけは何ですか？

小学生の頃に民謡で全国優勝し、そこからテレビのちびっ子双子レポーターとして選んでいただき活動していました。その取材の一つで社交ダンスを体験する機会があり、面白さや魅力を知ってハマってしまい、始めることになりました。

実習と課外活動の両立はどうしていますか？

毎日トレーニングや練習、アルバイトを行い、隙間時間や帰宅後に集中して課題に取り組んでいます。両立できるようにダンスも勉強も短時間で集中力も質も高めて効率的に行うことを心がけています。

看護学部3年

大木 風香
OOKI FUKA



看護学部の授業の中で

実習で患者の方と関わる上で 苦労したことは何ですか？

実習で関わらせていただいた患者の方は優しい方ばかりで、たくさん会話ができました。そのため、会話の中で困ることは少なかったのですが、患者さんが不安を感じている時などにどのような声をすると良いのか悩む事がありました。しかし、実習中は指導者の看護師さんや先生にいつでも相談できアドバイスをいただける環境にあったため、安心して実習を行えました。他にも、看護技術などのフィードバックやアセスメント、看護問題や看護計画の立案をサポートしていただき学び多い実習となりました。

特に印象に残っている授業は何ですか？

VRを使って、認知症の体験ができる授業が印象に残っています。認知症の感覚を実際に経験しているかのような体験はとても興味深かったです。認知症は物忘れだけでなく様々な症状があって、幻覚や幻聴の影響で見え方や聞こえ方が以前と全く変わってしまいます。例えば、私達にとっては少しの段差であっても認知症の方にとっては段差をうまく認識できないことにより、階段から降りる際に認知症の方が段差やステップを認識できなくより、ビルの高層階から足を下ろしている感覚になる事があります。これを言葉だけではなくVRで体験できたことにより、認知症の方の心身の変化を実感し、治療上のケアや声かけに活かせるので、良い体験となりました。

細谷多聞教授の金言

Professor Tamon Hosoya's Maxim

© 2014 株式会社 学研出版

「人とは違う道を行ってきた」細谷教授が、
今学生に伝えたいことは――



細谷多聞教授

1965年、東京都東村山市生まれ。筑波大学大学院、九州芸術工科大学、国際メディア研究財団等を経て、2006年に札幌市立大学デザイン学部助教授に着任。その後教授、学部長に。現在はデザイン工学、デザイン史、デザイン総合実習Ⅲ、ユーザーエクスペリエンスデザインⅢ、材料加工理論(クレイ)を担当。

なぜデザインの道に？

デザイナーになりたいと言っていた学生ではなかったです。むしろ何をしたらいいのか分からず、とりあえず大学に行こうと思っていたタイプでした。私は帰国子女なのですが、周りの帰国子女の人たちはその冠を使って、どんどん推薦で大学に入っていました。でも私は生粋の帰国子女というわけではないので、その冠は使えませんでした。気がつくとうちで受験になっていて、自力で受験しなければならなくなり、

デザイナーになりたいわけでは…

大学に落ちてしまったんですね。でもたまたま愛知県芸術大学を受けた時に、「これだったら勉強できるかも」と思ったんです。「こういうことをやって、大学に入ることができると」って、思い、そこで私のデザインの芽が出たんです。それで浪人をして、かなり精力的にデザインの勉強と大学に入る準備を始めました。やはりそれが非常に自分に合っていたんですね。次の年には余裕であっつちこの美術系やデザイン系の大学に入学する能力がつき、知り合いの先生がいて一番行きやすかった筑波大学に入りました。

◀大学院生時代の細谷教授。笑顔が爽やかだ



「どんな学生だった？」
あまり真面目な学生ではなかったです(笑)。楽しいことが他にもできて怠けてしまいましたね。一、二年生ぐらいのときはサークル活動に没頭していました。すると総合実習の授業で、先生から「細谷、お前、なんで大学来た」と言われてしまいました。課題も遅れ遅れでした。そこで反省して、三年生になるときに、自分の専門のコースの授業が始まったタイミングで心を入れ替えました。

大学院に進んだワケは？

就職先はある会社に決まっていたんですけど、でも同級生に「故郷に帰りたいから譲ってくれ」と言われて、「大学院に入ればいいのかと思って譲ったんです。就職先はある会社に決まっていたんですけど、でも同級生に「故郷に帰りたいから譲ってくれ」と言われて、「大学院に入ればいいのかと思って譲ったんです。」

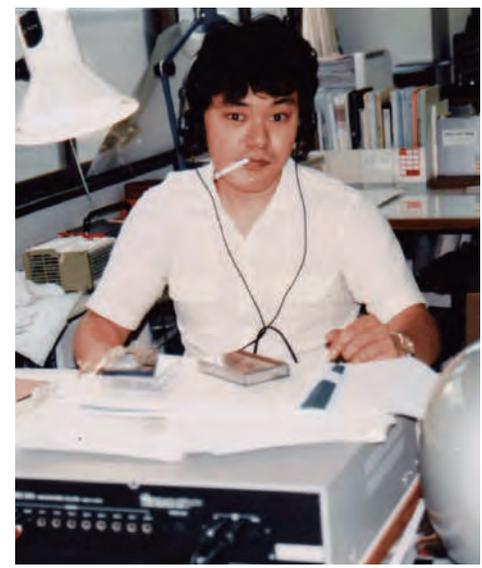


人と違うことを認められた瞬間

大学院に進む人は当時は少なかったのでは。

そうですね。大学院に行く人は当時としてはかなりの変人でした。金にもならない進路ですからね。今でも覚えてることがあります。当時はスキーブームで、私もスキーが好きだったんです。スキー場は週末に行くこととく混んでいたのですが、平日に行くことがガラガラでした。ホカボカの日に当たりますがリフトに乗って、「今ごろ同級生は働いてんだろうな」とみたいなことを考えていました。そうするとちょっと吹っ切れましたね。「そっか、俺、

◀大学院生時代の細谷教授。ワールドでかついい



大学院で研究してるから、みんながあくせく働いてるときにこんなことできるんだ」って。人と違うことを自分で認められた瞬間があったんですよ。それまでは「みんなに追いつかなきゃ」とか「大学院に入っても、どんな作品発表してないかと負けちゃ」と思っていました。デザインをやるということは共通だけれども、やり方が彼らと違っている。ほとんどの人たちがデザインを産業として捉えるときに、研究として捉えていたわけですから。

college days



SCUの強みとは？

—SCUの強みとは。

—SCUの強みとよ。

ワールドの多様さですね。これまで私は東京など人がたくさんいるところでデザインをしていたので、デザインをするときに人のことばかり考えていました。当たり前だと思うかもしれませんが、人を中心に物を見ることは、もう世界中のデザイナーがやっていることです。でもこの大学では、人がどういふ存在かというところから見る事ができるんです。これは全然違います。例えば、人は環境の中で生きています。自然環境やそういうものに育まれているということです。いくら都会の生活でも、人間に都合がいいような環境であったとしても、それを取り囲んでいるのは自然なんです。北海道で勉強したり札幌の大学で勉強することのメリットはそこで、人間の都合ばかり見ているのではなく、人間が自然に生かされているのを見、人や社会のためのデザインというものを考えることができる。こんな田舎でつまらないよと思うかもしれませんが、実は後々すごく大きく効いてきます。SCUを卒業した学生が、「何か変わってよね」と言われる主な原因です。

—確かにSCUの環境は特殊。

日本ではオンラインなんです。看護と連携があるといいますが、本質的には同じような背景にあります。人間を社会の一員として、また生物として見たり、そういう見方は、実は得がたい経験なんです。ここでデザインを考えるという経験は、少なくとも日本の中では非常にユニークですね。それを自覚して世の中に出ているのが、皆さんのその後の活躍を大きく左右するでしょうね。

—どんな学生に来てほしい？

言葉を選ばずに言うと、賢い学生に来て欲しいですね。賢いというのは、勉強ができるということではありません。悪賢いとかずる賢いとかも含めて、自分を取り巻く環境や状況、空気を読むと、そういうことに長けている人のことを賢いと思うんです。だから、デザイナーの素質としてすごく大事なことは、自分の置かれた環境にどう対応できるかという能力なんです。クライアントが変わったり、社会が動いていたりする中で、人を含む自然が求めるものを提案していかなければなりません。そこでは、自分が変わらなければ置いてけぼりになってしまいますから。

—最後に学生たちにメッセージを。

「人と同じ戦い方をして生き抜こう」なんて思わない方がいいです。私が付き合ってきたデザイナーの多くは、「あいつはこう考えるんだったら違うことをやる」という考え方で生き延びている人たちです。学生の皆さんは怖がっているんですね。「普通」から外れると、もう未開の地だから行き方がわからない。私が大学院に行ったときの不安と同じです。スパアウトすると、何かもう不安でしょうがない。違うんです。そこがパラダイスなんです。そのマインドは、デザイン学部として、やっぱり持つていなければならぬし、入学をする人たちも強く持つていてほしい。怖がらないで、オンラインワ

「オンラインワンのなりなさい」

—オンラインワンの賢さとは。

賢さというのは、いわば先を読むことだと思います。「正しいことと違うな」だからこいつはこう対応してあげれば、相手は喜ぶはずだとか、「人間は幸せになるはずだ」というような予測をもとに、自分の行動をしていくこと。これが六十年近く生きてきて（デザインに関わって四十年くらい）感じる。今のところの結論です。賢いという言葉は抜くのであれば、状況を鑑みて、自分の未来の行動、あるいは、その対応を決めることができる人。それがデザイナーにとって一番必要な能力だと思います。



Media Archive

昔は伝統や文化が建物に保存されることで情報をアーカイブしてきたが、現代はメディアの多様化によりアーカイブの手段も変化した。このように、現代のメディアに囲まれた環境で文化や情報をどのように扱っていくべきか研究しているのが須之内講師だ。

「アーカイブ」という行為は単に保管するだけではない。そのアーカイブしたものにアクセスすることで新しいものが生まれ、その新しいものをまたアーカイブする、という循環が生まれる。このようにして生まれる循環の環境をどのように作っていくのかについてを大きなテーマとして活動を続ける。

須之内元洋講師 ずのうちもとひろ
愛媛県松山市出身
建築を学ぶため東京大学建築学部に入る。
その後ソニー、サイボウズ・ラボ、ウイズアシスタントなどの職場を
経て札幌市立大学へ。



今行っている研究について教えてください。

メディアは環境だと思っていま
す。その環境をどのようにデザ
インして作っていくかをテーマに
して活動を続けています。何年
か前には、京都の「みずのき美
術館」の、障がい者の美術作品
をどのようにアーカイブしてい
かについて研究していました。

美術作品をデジタル化して
アーカイブすることで、それを
見た人たちがさまざまな活動に
展開することがあります。他に
も、音に関する研究にも取り組
んでいます。音楽と音楽ではな
い音の間の特徴に着目し、記号
化する研究も行ってきました。

今現在進行中の「北海道芸術
文化アーカイブセンター」というア
ロジェクトでは、北海道で行われ
てきた文化的・芸術的活動の歴史に
ついてアーカイブしています。北海
道という地域は、新しいことをし
ようとしても、同じことを繰り返
していることも多いため、歴史とし
てアーカイブすることで過去の活動
を明確化できるのではないかと思
っています。

これからの目標や展望
があれば教えてください。
またいです。

あまり何年も後のこと
は考えないようにしていま
す。一人で考えて決めてい
くより、出会った人との
繋がりを大切にしていく
方に重きを置いていたら
良いかなと思っています。
プロジェクトによっては京都
や東京などでも行っている
ので、場所は選ばず、さ
まざまな場所で活動はし
ていくと思います。

SCUで学ぶことの利点は
何だと思いますか？

自分のやりたいことをできる環境
が整っている。有効活用できる学校
ではないでしょうか。人数が少ない
という特徴も先生と関わることで
きる時間が多く、距離も近く学べ
る点に活きていると思います。

SCU生の良いと思うところは
何ですか？

やりたいことに対して向き合っ
ていたり、真剣に考えていたりす
るので、作る側の人間としての心
をみんな持っているのではないかと
思います。

そのため、生徒は良い意味で「邪
悪感がない」という印象です。僕
自身もこの大学で過ごして学生さ
んから刺激を受けることもありま
すね。「僕も頑張ってみようかな」
とか、「生徒がこうするのならこ
なことをやってみよう」とか。

最近のイチオシの音楽について
教えてください。

山田と巨ロさんという謎のDJが
いるのですが、なかなかかっこいいブ
レイを見せてくれます。本人も良
いブレイをしたなと思う時に、に
やとするとすよね。(他にも紹
介していただきましたが載せ切れ
ないので下に記載しています)

須之内先生イチオシの音楽
7038634357 / NEO SEVEN
三浦透子 / 漂流
前田健太 / きよならだけどきよならじゃない
ヤマダヒロコ



「幸せに生きていける ための支援」

看護に関心がある人へ

「看護は一言で言っても幅広い。」「看護と言っても、その力を活かせるフィールドは多岐に渡り、例えば手術室、一般病棟、集中治療室や救命救急センター、地域に向けて働く人もいる。本学の看護学部ではそれらを全て学習するが、最終的に専門を選ぶことになる。色々なことに興味や関心を持ってるといえる。」「病棟によっても働き方やそれまでの経路が随分違ってきます。分からないことも多いと思いますが、入学してから勉強すればいいです。あなたの思っている以上にずっと広い世界なので、自分の好きな分野を見つけていけばいいと思います。」

実習について

本学の看護学部の学生は一年生の前期から実習授業がある。実際に病院の病棟を訪れ仕事を教わる。どんな仕事をしているのか実際に目の当たりにすることで、その後の学習も進み早い段階でどのような勉強が必要かということが理解しやすい。「勉強することも多く辛いこともあるが、一人で勉強や練習をしているときは、相手がいないから何も手応えがない。実際に話したり色々なケアをしたりすることで患者さんが喜んでくれたり、それが楽しさに繋がる。」と卯野木教授は話す。

「看護」に対する考え方があってもいい環境です。」

やりがいとは

患者さんの病状が良くなったり自分がやることが功を奏したとき、やりがいを感じると言う。特に急性期看護を専門とする卯野木教授がいた現場は患者さんの急変が比較的頻繁に起こるところであるため、早期発見出来たり上手く対応することが出来ると嬉しいと言った。「患者さんが私のことを覚えていないのが殆どなんですけどね(笑)。でもたまにお礼を言いに来てくれることもあって。そういうときはやっぱり嬉しいですね。」

「看護」とは

看護師は活躍する場が様々なため、一人一人自分なりの

あなたの思っている以上に ずっと広い世界

卯野木 健 教授

- ・九州出身
- ・千葉大学看護学部看護学科卒業
- ・筑波大学大学院修士課程
医科学研究科修了
- ・筑波大学大学院博士課程
人間総合科学研究科修了
- ・趣味はキャンプ、釣り、スキー
- ・好きなミュージシャンは Nirvana



ひとを救う仕事

札幌市立大学看護学部の卯野木健(ウノキタケシ)教授。急性期看護学の専門であり、本学の学生、特に大学院生などの医療従事者向けの雑誌『ICNR』の編集長など幅広く活動されている。病気になる前から間もない時期や、病状が安定せず集中的な治療が必要な時期のことを急性期という。急性期看護は病状が危険な場合が多く、そのような患者さんの悪化を防ぎ、回復をサポートする重要な役割を担っているのが、急性期看護である。また集中治療室で仮に病状が改善したとしても、PTSD(心的外傷後ストレス障害)や鬱などの後遺症が時を経て発症する場合がある。卯野木教授はその後遺症についてどのような症状があるか、どのような人が症状を持つのかということに研究している。教授が今、特に注目しているのがAIの存在だ。どのような人が後遺症を起こすのか、などAIの機械学習を活用して予見出来ないか、ということに本学で研究している。「AIを使って、一年後にどのような人が具合が悪くなるのかということが分かれば、その後のフォローアップがしやすいと思う。」と語った。ひと段落した研究もあるようだが、より多くの人を救うために今もなお勉強の日々だと言う。

「看護」に対する考え方があってもいい環境です。」

高校生へメッセージ

「この大学は色々な専門の先生がいるので知りたければたくさん色々なことを知ることが出来ます。看護を学びたい学生にはとてもいい環境です。」



卯野木教授が編集長を務める医療系雑誌『ICNR』。主に読者はICUで働く看護師だそう。内容は専門的だが、記事のデザインは実際のデザイナーの方に依頼していることもあり親しみの持てるような見た目のページがあるのが印象的だった。



『ICNR』の表紙。黒を基調としたスタイリッシュなデザインは卯野木教授のお気に入り。「あんまり真っ黒の雑誌ってないですね、良いですね。」

武富 貴久子

Taketomi Kikuko

略歴

九州出身
看護師として病院勤務や大学での研究員を経て、
2018年より現職

学位

2008年 修士(医療経営・管理学)九州大学
2016年 博士(医学)九州大学

担当授業

看護観察技術論、看護過程論、基礎看護技術論、基礎看護学
臨床実習Ⅰ、基礎看護学臨床実習Ⅱ、学部連携演習、卒業研究、
ヘルスクエアマネジメント実習、研究方法論、援助的人間関係論

看護学部2年

武富 彩加

Taketomi Ayaka



看護学部講師

武富 貴久子

Taketomi Kikuko

武富(貴)

専門職大学院だったので、その領域のトップの方たちから、最先端の医療や医療の成り立ちについてお話を聞く機会が多かったです。

武富(彩)

すごい。だけど、座学が辛くて(笑)。睡眠と戦いながら生懸命聞いていました。けれどもそれ以上に、刺激的で面白かったですね。

武富(貴)

するには、そこに管理やシステム、そして他に何が必要かと考えたとき、「臨床の場での教えることと学ぶこと」に行き着き、博士課程は教育の分野に進学しました。では、その頃から教員になろうという想いが?

武富(彩)

その頃はまだ、教員になることは想定してなかったですね。転勤族なので、どこに住むかわからないというのもあって、見切り発車的に進学したんです。だから、大学院の途中で北海道に来たんですよ。

武富(貴)

遠隔で授業やゼミを受けたり、時折九州に帰って受講したりしていました。大変ですね。結構遠いですよね、端から端、みたいな...

武富(彩)

でも、新千歳空港から福岡空港までは飛行機一本で行けますし、移動時間も勉強したり、睡眠時間にしたたりして、意外とよかったです。

武富(貴)

そうですね。修士では医療経営、医療システムについて学んだのですが、病院の従業員の割合で最も多くを占めているのが看護師で、その専門職が病院のシステムの中で機能

北海道と福岡を 行き来する生活

武富(彩)

そのあとは、博士まで進学されているんですね。

武富(貴)

そのあとは、博士まで進学されているんですね。

「看護研究者」としての始まり

幼い頃から「こうなりたい!」という明確なビジョンがあったわけではなく、受験で進学先を選ぶときに決めました。

そうだったんですか!その後、大学院にも進まれたそうですが、大学院にはどうして進むうと思われたんですか?

私は九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

私には九州出身で、大学病院で看護師をしていたのですが、結婚を機に退職したんです。家族が転勤族なのでずっと転々としていて、大学病院を辞めてからは20年ほど専業主婦でした。そろそろ「社会に貢献しなきゃ」と思い「復職するんだ」

ということ、就職を経て大学院に進学されたんですね。

そうですね。専業主婦をしつつ大学院生になりました。女子大学生というか、主婦大学生ですね(笑)。

どんな感じでしたか。周りの学生との年齢差などあったのでしょうか?

大学院生は30代、40代、50代の大人の方も多かったです。修士の課程が医療経営管理という分野だったので、行政の方、留学生、医師、看護師、医療を支える職種の人たちなど、様々な方がいました。だから、学部で10代の学生さんと一緒に学ぶという感じではなかったです。バリエイ豊かな人がいる、そんな大学院生活を送っていました。

修士課程では、どういったことを学ばれていたんですか?

医療経営管理という分野を専攻し、医療システムなど、医療を取り巻く様々なことを学びました。



新千歳⇄福岡間のフライト時間は1時間30分~2時間30分ほど。かなりの遠距離通学に驚き。

武富貴久子先生の「これまで」「いま」「これから」に迫る

看護師、専業主婦、研究者、教育者... 様々な経歴を持つ、SCU 看護学部 武富貴久子講師。
看護学部2年 武富彩加が、対談を通してその人生の「これまで」「いま」「これから」に迫ります。



「看護教育者」としての始まり

武富(彩) 本格的に看護教育の道に進まれたのはいつ頃からですか？

武富(貴) 看護師を辞め、大学院に進学するまでの間、住んでいた県で看護学校の非常勤講師をしていたことがありません。でもその時は、一時的なサポートとして入った感じですね。全然教員になろうと心に決めた訳ではなかった。だから、教育者としてのデビューはSCUですね。大学院の博士課程で研究をする中で、現場での教育に挑戦してみたいなと思うようになりました。そんな時、タイミングが合って、SCUの教員に応募したんです。



D×Nとは？

デザインと看護、2つの学部がともに学ぶ、札幌市立大学だけのプログラム。一見全く異なると思われる2つの分野には、「人を見つめ、人の目線に立って考える」という根本的な考え方に共通点があります。札幌市立大学の異分野連携科目では、両学部が共同し、地域の課題を発見し解決に取り組む実践的な授業を行い、広い視野とコミュニケーション能力を育みます。

授業例：スタートアップ演習（1年次）、学部連携基礎論（2年次）、学部連携演習（3年次）

03 「これから」の看護

今後、SCUという場を活かして挑戦したいことはありますか？

色々なことに興味があります。デザインも学んでみたいですね。デザインを学んで、医療の現場を「辛い治療の場所」ではなく、「安心できる療養の場」にできると思います。私だけではできなくても、D×Nで学んだ学生さんたちが、素敵な医療環境、療養環境にするための提案をしてくれたら嬉しいですね。「こんな病院どうですか」「壁紙こんなものがいいんじゃないですか」という風に、どんどん医療現場に参入してほしい。「夢を現実にする」ためには、やっぱりデザインの思考は大切だと思います。

では、看護のこれからを担っていく看護学部生にメッセージをお願いします。

私が学生時代に学んだことと、今の教育内容はそれほど変わらないんです。人を対象とした学問なので、人の身体が大きく変わるわけではないし、コミュニケーションの基本的なことも変わらないので。だけど、今後看護に求められるものや、医療、健康に対する考え方は変わっていく。「人の考え方」は変わっていくと思うので、そうした変化に対応できる看護師になってほしいですね。これまでの常識に囚われることなく、新しい考え方やスキルを開発、展開してってください。

02 SCU 講師としての「いま」

武富(彩) 次に、先生が担当されている基礎看護学について教えてください。

武富(貴) 基礎看護学は、これから看護を学ぶ人たちがすべての、基本の学問のようなイメージです。技術や看護における考え方を学ぶベースの部分かなと思います。なので、一年生の授業が多いですね。

武富(彩) 授業を行う時に心がけていることはありますか？

武富(貴) 教員としてはそれほどキャリアが長いわけではないので、「教える」というイメージではなく、「先に見習いになった先輩のような気持ちで一緒に考えられる場を作れたらいいな」と思っています。対等な感じ。自分も学生さんとのやり取りの中で学んでいる学習者です。

Q 一年生全員を教えているそうですが、彩加さんからみた武富先生の印象は？

武富(彩) 一番は、明るくて話しかけやすいという印象です。

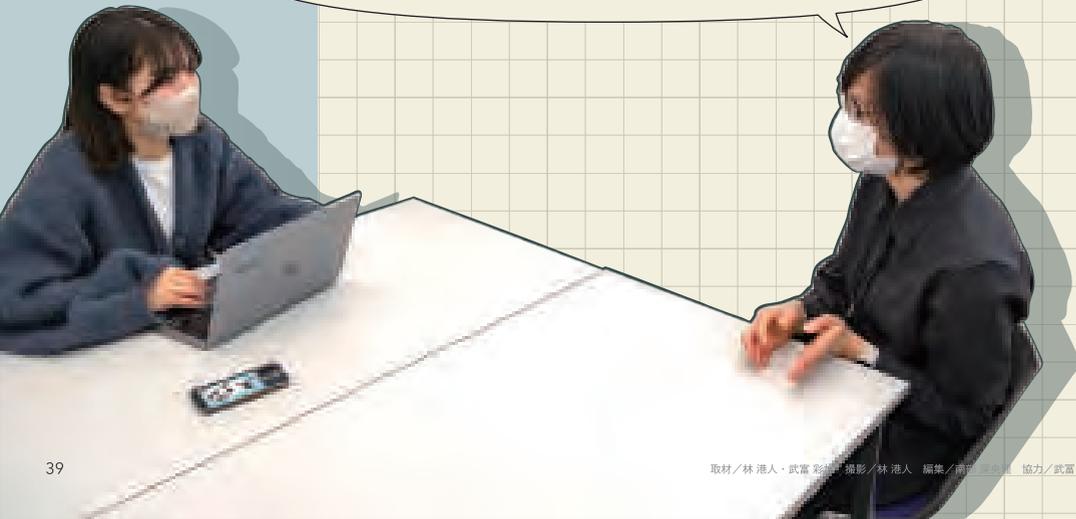
武富(貴) 同じ名前なので、「武富さん、どこ出身？」と聞いた気がします。親戚の方が九州なんでしたっけ。

武富(彩) そうです！祖父が九州です。

武富(貴) 勝手に親近感を感じています(笑)。

Q 彩加さんは「看護実習が楽しい！」と言っていました。先生の考える「看護の楽しさ」とは？

武富(貴) 看護では、何が得意・苦手、文系・理系ということではなく、「人について学ぶこと」が大切だと思います。人について学ぶことに興味があれば、そこに楽しさを見つけられますよ。実習もドキドキするかもしれないけれど、教員がサポートしているので安心して大丈夫です。



AYETS!



Q & A

皆月明人さん
デザイン学部
旧メディアデザイン卒業

キャッチーで強烈な一発ギャグで笑いを巻き起こすピン芸人。かつ、「怪奇!Y esどんぐりRPG」としてユニット芸人としても活動を行う。近年R1グランプリでは2024年、2023年にて準決勝とメディアアの注目を層集めている。

札幌市立大学旧メディアデザインコース出身という経歴から、なぜお笑い芸人という道に進んだのか、学生時代のデザイン制作とお笑いの創作に通じる部分はあるのか、作る人としての心構えに迫るインタビュー。

大学時代からすでにお笑い芸人??

Q 大学に通いながらお笑いの活動はどのように行っていたのですか? また、本格的にお笑い芸人として活動することを決めたきっかけはありましたか?

A お笑いは在学中に事務所に所属しながら活動していました。札幌雪まつりでは、お笑いをステージで披露して、翌日には当時所属していたダンスサークルでも「ステージに立っていました。大学四年生の時に「R1グランプリ」で3回戦まで進出できたことをきっかけに、東京でもっと挑戦してみたいという意識が芽生えました!

お笑いもデザインも繊細な人が向いている?



Q お笑いと映像制作などのデザイン分野、どちらも創作していく上で共通することや通じていることはあると思いますか?

A お笑いもデザインも、見ている人がどう感じているのかが、どちらにも創作していく上で共通することや通じていることはあると思います。どちらも自分の我が強すぎても、自己満足になってしまつて、相手はどう感じているか俯瞰で考えることができない人が向いているのではないかと思います。

学生に向けてメッセージはありますか?



Q 看護学部との連携が特徴的なSCUですが、異分野と関わることでできる良さは何だと思えますか?

A 社会に出たときにその授業の大切さがわかると思います! 皆さん今はそれぞれ同じ領域で同じ輪の中で生活することが多いと思いますが、仕事をするとき、他の分野の職業の人と関わることはたくさんあります。そのような時に大事になるのは連携授業での経験ではないでしょうか。

メディアデザインコースでCMの映像制作をしていました。GATBYの学生コンペで「CM一般部門賞」を受賞したことがあります。

キャッチーな一発ギャグがクセになる人、se! アキトさんですが、ネタ作りやお笑いをしている上で「デザイン学部で得られたことが活かしている部分はありませんか?」

学んでいたことが活かせるじぎ。

A 「何を技術的に理解するかがより良いものを制作することができている」という意識が、制作する上で活かされています。

卒業生に聞く

SCUでの学びと高校生に伝えたいこと

札幌市立大学の卒業生で、現在は札幌市内にある株式会社インプロバイドで働く八木橋ひかりさん、片桐由貴さんにお話を伺いました。今のお仕事についてやお二方の大学時代の思い出、そして高校生に伝えたいメッセージについてもお伺いしました。

八木橋ひかりさん
デザイン学部
旧メディアデザインコース卒業

片桐由貴さん
デザイン研究科
人間空間デザイン分野修了

What is IMPROVIDE (インプロバイド) ?

北海道札幌市のクリエイティブエージェンシー。北海道の食 / 観光 / 地域を軸に、企業や自治体、商品・サービスの指針からデザインを行っている。



▷株式会社インプロバイド・社内の様子



▷webサイト



▷instagram

01

札幌市立大学を
進学先にした理由

八木橋 経済的な理由で私立大学に行く選択肢がなかったため、国立公立大学の中で進学先を決めました。せっかく四年間学ぶなら好きなことをしたいと思い、絵を描くことが好きだったため、デザイン学部がある札幌市立大学を選択しました。当時はデザインのことはほとんど何も理解できていませんでしたね。

片桐 私の場合は、札幌市立大学が開学する新聞記事を母親から教えてもらったことがきっかけです。小学生の頃からデザイナーを志していたので、デザインが学べる大学に興味を持ちました。進学するなら北海道内、国立などいろいろな条件を考えた時に、選択肢は札幌市立大学ひとつでした。今考えると、北海道以外や美術大学などの選択肢も考えていれば…と振り返ることもあります。高校生の私にとってベストな選択肢だったと思います。デザインに興味を持ったきっかけの一つに、グラフィックデザイナーであった祖父の存在があります。ファミリーレストランのロゴや区のマークのデザインをしていました。小さい頃は、仕事部屋にい



「デザイン」って楽しそうな響き。
最初はそういう印象だけだった。

る祖父の姿が印象的でした。遊んでくれる時に描く似顔絵や文字がすごく上手で、当時は何のお仕事をしているのだろうか？と疑問に思っていました(笑)。祖父の影響でデザインの仕事に興味を持ちました。ファッションが好きだったので、ファッションデザインに進もうと考えた時期もありましたが「自分のつくったものが長く世の中に広まっていくと素敵だな」という感覚が生まれ、空間デザインを学びたいと思うようになりました。

八木橋 受験前は入学案内を見て、スカイウェイを歩く自分を想像して受験のモチベーションを保っていました。

片桐 キラキラした先輩も載っていましたよね。高校生の私には、先輩たちの姿がとても魅力的でした。

02

現在とはどんなお仕事を
されていますか？

八木橋 新卒からインプロバイドでデザイナーをしています。今は採用担当も兼任しています。デザイナーという肩書きではありませんが、グラフィックデザインやアートディレクションはもちろん、案件に

よってはWebデザインなども担当します。肩書きや領域に縛られない仕事の進め方が多いです。

片桐 デイレクターをしています。お客さまと打ち合わせをし、プロジェクトの方向性を決めたり、スケジュールなど進行管理をしたり、構成を考えたり、プロジェクト全体を見渡して判断する役割です。時には取材をして原稿を作成することもあります。見た目の前段をつくるイメージです。デイレクターとして幅広い領域を横断しています。最近はずかの広報デザインや福祉業界のWebデザインの仕事も担当しています。

03 大学時代に力を入れたこと

八木橋 二年生に上がる前、手拭いデザインの学園コンペに参加しました。そうしたら運良く、四年生に混ざってデザインが選ばれて、「グラフィックデザイナーに向いてるかもしれない」と笑。勘違いだったと思いますが、そこから学外のデザインコンペにたくさん応募するようになりました。

片桐 歯医者マークをデザインしていたイメージ！繋がっていくような気がしました。出身が北海道のオホーツク管内なので、地元や地域に関わる研究がしたいと「オホーツクの自然から学ぶ植物模様」というテーマで研究を始めました。空間デザインの植栽や緑地計画を担当する先生のもと、オホーツク海岸沿いの植物生態学を調査して「フィールドワークも！」植物たちがどんな暮らしをしているのか模様を描くデザインです。学芸員資格を取得する科目も履修し、実習先の博物館でも植物の勉強をしました。自分のデザインの軸ができ、自分で決めたことを実践することがすく充実していました。

04 これからどんなことをしていきたいか

八木橋 私、目標とかがありません。タイプでほんとに目の前のことをひとつひとつ着実に仕上げていって、デザイナーとしてのスキルアップができたらいいな、と考えています。

片桐 デザイナーという枠組みを超えた取り組みですよ。
八木橋 そうですね。デザインだけじゃないというわけではなくて、見た目を作るし、お客さんにそれ

自分の軸を見つけると、 学びが深くなる。



八木橋 やってたやっていた。歯科クリニックを想定したロゴマークのコンペだったと思います。それは一応金賞をいたただいて。あとは技術力を養いたくて三年生から印刷会社でアルバイトをしていました。ただ、アルバイトなので写真や原稿の流し込み校正を担当することが多くて。そういう仕事も大事だし、嫌じゃなかったですが、自分はずっとアイデアを考えるところから携わりたんだなと気がつきました。

片桐 私は大学院まで合計六年間大学に通いました。大学入学〜三年生までは授業課題はやっていましたが、それ以外の自分の活動というものがなく、正直ほぼ記憶がありません(笑)。四年生になる前に卒業研究の研究計画書を提出するのですが、その時に「自分のデザインに改めて向き合いました。何がしたいか？何ができるか？新しさはあるのか？自分らしさは？ひたすら図書館にこもって、自問自答しながら研究計画書を仕上げました。現代芸術論、美術史や建築史といった講義で学んだウィリアム・モリスの活動やデザインに興味があり、自分もモリスのように植物と空間をつなぐ研究がしたいと考えていました。あまり記憶のない大学時代の前半の学びが、これから始まる研究に向けて要素が



を伝えるための資料や企画、全てをスキルアップするために、毎日着実に一歩ずつ進んでいきたいです。

片桐 デザインの会社について、モノ・コトの前後左右を考える仕事をしているので、「こういう風に伝わっていくのだから？」「どこまで影響があるのか、波及力をつくれるのか？」と考え取り組んでいきたいです。お客さまを相手としたビジネスなので、事業としてうまく行くのか、お客さまにとって仕事の広がりをつくれるのか、そして

て自分たちの次につながるか、という観点でも仕事を考えています。
また、私たちは社会人六年目になりました。学生の頃に持っていた価値観と、今の価値観はかなり変わりました。当時理解できなかったこと(反感を持っていたことも)、だんだんと分かったりするんです。あの日、こういうことだったのかと。理解できることや受け入れられること、できることが増えて、今人生が一番楽しいです。なぜかと考えると、周りの大人に恵まれている

影響を与えているのか「どのようにデザインを組み立てていくのか」を伝えることで、した。デザインが世の中の役に立っている。難しいけど楽しい私が、もっと早くデザインに出会っていたかったかと思ってるので、そういうところも含めて、仕事外でデザイナーという職業を伝えていきたいです。
片桐 そうですね。大学三年生までは知らない世界が多すぎて窮屈だったのかもしれない。いろいろな価値観に触れて吸収できる今は生きやすさにもつながっています。

す。知るって楽しいし、逆を言えば知らないってかわいなとも思うんです。

05 高校生へのメッセージ

八木橋 いいアウトプットをするには、多くの経験が必要だと思います。さまざまな経験は、自分の表現の幅を広げるだけでなく、自分自身を知るいい機会にもなります。高校生のみなさんにはぜひ、たくさん遊んでたくさん学び、自分の糧にしてほしいと思います。

片桐 自分がどんなデザインをやりたいのか、真剣に考えることが必要だと思います。デザインと言葉にするのは簡単ですが、コミュニケーションやビジュアル、空間などいろいろな分野があります。自分が学びたいデザインの分野があると学ぶべきことや学びたい先生も少しずつ明確になってきます。「デザイン」から一歩先を考えて進歩すると良いと思います。

やりたい「デザイン」が何かを問う。

よく遊び、よく学ぶ。

記事に載せきれなかった

あんなコトやこんなコト

Q. 今のお仕事をしている中で、楽しい!と感じるのはどんな時ですか?



仕事を通して新しい知識を得ることが楽しいです。また、お客さまのやり取りの中で、求められる以上のものをご提案できた時や感謝の言葉をいただいた時は楽しいし嬉しいです。



2023年に室蘭市のブランドマークを制作するプロジェクトでグッドデザイン賞を受賞しました。両親も知っているアワードを受賞できうれしかったです。また、いろいろな現場に行き、人と出会い、自分の価値観が広がっていく実感も楽しいですね。

※グッドデザイン賞 (公式サイト: <https://www.g-mark.org/>)

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。



▷室蘭市のブランドマーク

Q. 今デザインを勉強中の学生です。将来デザイン業界でやっていけるでしょうか…?



意外と、技術力とかみんな同じくらいなんです。なので今は個性や自分の強みを磨いていくといいのかなと思います。自分で「これが得意」「これが好き」と言い切れるようになると自信になると思います。



八木橋さんと同じようなことを考えています。よく学生さんのポートフォリオを見ますが、学生さん自身がどんな得意分野や個性があるのかに着目します。不安に思うようであれば、まずは色々なことに挑戦し、自分ができることを増やしていくと良いと思います。

くるめさんのデザインセオリー



齋藤来瞳 (さいとうくるめ) / 株式会社トリ 面白法人カヤック デザイナー
デザイン学部 人間情報デザインコース卒業

SCUに入学を決めた理由は何ですか？

高校からの5年間、高専で工学について学んでいました。しかし、実際に進路の分かれ道に立った際、自分がその環境で働くイメージがつかず、とても悩みました。そんな時に、当時の担任の先生から元札幌高専であるSCUについて教えてもらい、デザインという今まで学んでこなかった分野にも興味を持つことができました。

SCUで学ぶ特徴は何だと思えますか？

良くも悪くも「広く浅く」学べる点の特徴かなと感じています。他の美大や専門学生と比べてしまうと、グラフィックや技術的な部分で目立つことは難しいのですが、SCUはデザイン思考・論理を学べる点が多く、ユーザーの感性や体験の視点に基づいたデザイン制作をすることができるところが強みだと感じています。

学生時代からデザイナーとして活動してきた来瞳さんを深掘り。

どうしてフリーのデザイナーとして活動するようになったのですか？

きっかけは、自分が制作したタイポグラフィをWebサイトに掲載したことで。これを見た方達からお仕事を頂くことが増え、自然と活動を広げることになりました。他にもコンペで絵本の制作を行ったり、友達の会社のブランディングを積極的にお手伝いしたりして、単純に好きなものを作るというより、誰かターゲットのためにデザインすることが自分自身の力にもつながっていったと思います。その中でも商品のロゴやパッケージまで携わったブランディングは自信につながる機会だったと思います。

面白法人カヤックのデザイナーとして働くまでに至った経緯を教えてください。

私は最初、UXデザイナー（ユーザーにとって使い心地の良いシステム・ビジュアルを通じて体験をデザインする仕事）として働くイメージを持っていました。そのイメージがあったのに、なぜコンテンツデザイナーという仕事に就いたかという、今の会社の面接を受けたことがきっかけであったからです。

※1 偶発的計画論
克蘭ボルト教授の、偶然を計画的に設計して自分のキャリアを良くものにしていくというキャリア思考
※2 感性デザイン
人間が感覚的に思うことを、数値化・パターン化して、デザインに活かす学問

私自身、元々クライアントの計画や考えを形にする方が性に合っているな、と思っていました。面接でそのお話をした際に、「計画的偶発性理論」に当てはめて考えてください、私自身を見てくれているところに惹かれました。実際働く上で、考え方が会社と合うかって大切だなと思います。

デザイナーとして持っている軸はありますか？

人のためにも自分のためにもなるような仕事ができたいなと思っています。また、何を考えて誰が商品を利用するのか、クライアントになりきることが大切だと考えています。これは学生時代に感性デザイン※2について研究していたことがベースにもなっていると思います。これからデザイナーという仕事をする上で、流行に敏感で・新しいものを取り入れていけるデザイナーでありたいと思っています。

学生の皆さんにメッセージをお願いします。

学生の皆さんには自分の好きなものに向き合って、自身がわくわくするモノ・コトを追求してほしいと思います。自分の好きなものに対するこだわりの気持ちを学生のうちに身につけてみて！

好きなことは芸術鑑賞とネコ



▲ 大学4年次の卒業研究 (左写真)
美術鑑賞をする人の感性に着目したカードゲーム
大学院修士過程卒業研究 (右二つの写真)
芸術鑑賞時の内面をノートに

Web デザイン、パッケージデザイン、絵本制作など、幅広い活動を行ってきた。



吹上 実来

株式会社スウェーデンハウス



— どのようなお仕事をされていますか？

今は、現場管理の仕事をするための研修を受けています。現場管理の仕事は、営業の方が契約をとった後、家を基礎から天井までできあがって行くところを職人の方と一緒に、日程を決めながらどんな材料を使用するかなどを細かく指示していくものです。営業の人に比べるとうちお客様と関わる機会は少ないですが、現状の進捗や状況説明は現場管理の仕事であり、そういったところでお客様と関わる場面はあります。また、職人の方などとのコミュニケーションをとる時間が多く、自分より年上の方、仕事に自信を持って活動している方とたくさん話すことができるところがとても魅力的です。

— 学生時代にどういった活動をされていますか？

卒業研究で都市計画のゼミに所属していたため、地方創成についての研究を行いました。ハウスメーカーで働いている今ではあまり関わりがないかのように思えますが、何かを調べることや、データを扱って根拠を用いて相手に話したり、難しい言葉を一般の人にも伝わりやすい言葉に置き換えたりという経験はとても役に立っています。

— 札幌市立大学での学びの中で活かされたことがあれば、教えてください。

作品を作って人の前で発表するという場面が札幌市立大学では頻繁にあり、会社の場合、目上の人に何か提案をする際、事前にパワーポイントを作成してお話をさせていただくことが多くあるので、こういったことに特化した大学の授業スタイルが仕事に活かされていると感じます。私はもともと発表の身に入力を入れることを意識していたのですが、パワーポイントで資料を作成したり、大勢の人にとってわかりやすい言葉選びをしたりするなどの力も同時に伸ばすことができましたと思います。札幌市立大学は発表などが苦手な人でも力を伸ばしやすいう授業形態がとられていて思うので、ありがたかったです。また、他の大学と比べて規模が小さい大学なので1人1人との関わりを深く持つことができのりも良かったです。社会人になると、どの職種についても取引先と対面で関わる人が多いので、そういったところでも大学時代に得た「人との関わり方」が役に立っています。

— 大学時代にやっておくべきことはありますか？

私自身、もともとデザインが得意なわけではなかったため、なにか得意な部分を見つけてなければならぬと思い、苦手でもイラストレーターやフォトショップは頻繁に使うようにしていました。自分が何が目指すところがあるのであれば、それに付随した資格を取っておくべきだとは思いますが、私はインテリア系や住宅のハウスメーカーに動めたかったため、大学のうちにインテリアコーディネーターの資格を取得しました。自分に必要ではないかもしれないと思いついても、会社に入ってから役に立つということもありますし、とりあまやってみるのも良いと思います。自分にはあまりできないなと感じることがあっても、毎日学校に行く、授業をしっかり聞くだけで社会人になったときに大切なものは身につけていくと思うので、とりあえず、学生のうちは学生らしく楽しんで学ぶことが一番大事ではないかなと思います。

— 好きな建築はありますか？

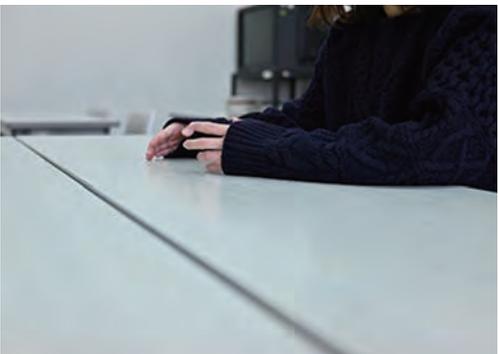
有名建築に必ずしも興味を持たなければならぬということはないので、知らなくても大丈夫ということは伝えたいです。私は「二建てが好きで、実際に生活が営まれている場所で、一つ一つ創り上げられているのが魅力だ」と思います。

— これから仕事ではどんなことをしていきたいですか？

私の会社はお客様とのつながりを、家を引き渡した後も大勢にしているハウスメーカーであるので、私もその職場の中でお客様を大事にしたいと思っています。大学で学んだ、相手への分かりやすい伝え方、どのようにビジネスライズをして情報をもたらしかなるの面では他の人より長けていられたらいいなと。常に自分に関わる人達に対して優しい社会人でありたいです。

— 最後に札幌市立大学を目指す高校生へメッセージをお願いします！

大学生生活は社会人になる前の最後の学生生活なので、不安なことも多いと思います。でも、この大学での四年間は必ず社会人になったときに役に立つ四年間になるので、色々なことを学んでほしいです。また、デザインに特化した仲間がたくさんいるため、相手の良いスキルを盗んだりして、互いに切磋琢磨することができ環境にあります。ぜひこの大学でのびのび自分のやりたいことを表現して、自身の望む社会人像に近づいていってほしいなと思います。



SCUからデザインの第一線へ

西内寛大

デザイン学部 人間空間デザインコース卒業

SCUを卒業し、札幌のデザイン事務所「STUDIO WONDER(スタジオワンダー)」に勤務している、西内寛大さん。魅力的でクリエイティブなデザイナーワークを展開するデザイン事務所で活躍している西内さんは、在学中どんなことをしていたのか。また、SCUからのようにデザインの第一線へ働くに至ったのかについて、事務所に伺いお聞きしました。

NISHIUCHI
KANATA

デザインスタジオ
スタジオワンダー



STUDIO WONDER

札幌に事務所を構えるデザインスタジオ。「エゾバ ルバンバン」「和洋折衷喫茶ナガヤマレスト」「薄野 喫茶バーブルダリア」などの様々な居酒屋や喫茶店のブランドデザイン開発、「Atelier D」「FIGHTERS DINING ROSTER」などのアートディレクション・プロデュースのサポートも行なっています。

西内さんはスタジオワンダーに入社後、これまでに「札幌 PARCO No Border」メインビジュアルのグラフィックデザイン・3D モデリングや、すすきに新し くできた水族館「AOAO SAPPORO」館内モーショングラフィックスのグラフィックデザイン・モーションなど、自身の強みを生かして様々なお仕事をしています。

<https://studiowonder.jp>



学生時代は
どんなことをしていた？

在学中は人間空間デザインコースに所属し、須之内先生(P.32)のゼミで映像やメディアについて学んでいました。課外活動で映像制作に取り組み、RISING SUN ROCK FESTIVALのインフォグラフィック映像を作ったり、EREVEN NINESという劇団の「12人の怒れる男」という作品のプロモーションビデオを制作したりもしました。2年生のときに大学の友達と一緒にプロジェクションマッピングのコンペに応募したものが一次審査に合格し、東京ビッグサイトでプロジェクションマッピングをしました。就職した現在も、大学の同期と「Smitharia」というグループで映像やプロジェクションマッピングに取り組んでいます。



▲ デスクで仕事をする西内さん



@_smitharia

映像から、なぜ
グラフィックデザインへ？

大学3年生の終わり頃に、デザインに関する本を見ているなかで「ナガヤマレスト」という喫茶店のブランディングが目にとまりました。調べてみると札幌のお店で、そのお仕事をしていたのが札幌のデザイン事務所「スタジオワンダー」でした。ちょうど春休みだったので、連絡をしてインターンシップに行きたんです。そのとき事務所の代表の方が「映像をやってみよう」と思っていたらしく、僕が大学でしてきた映像の活動を見せたところ、興味を持ってもらえました。それがきっかけとなり、入社しました。今ではグラフィックデザインのお仕事も担当することもあり、日々勉強になっています。

DESIGNER'S
INTERVIEW



デザイン学部 3年 林 港人

最初からグラフィックデザインをやっていたわけではなく、逆に別のことをやっていたことがうまくはまって、今のお仕事につながったんですね！

そうですね、グラフィックデザインに関しては、大学では全然やっていませんでした。人間情報デザインコースだと、授業でそういった機会があったりすると思いますが、僕は空間コースだったので。でも、映像をやっていたおかげで、それが別の分野に活かすことができました。



デザイン学部 2年 山本 愛心

授業外での制作活動もされていてすごいですね！私も友達とユニットを組んで制作活動、やってみたいです。

自分の興味のあることは、ぜひやってみるといいと思いますよ。もちろん、授業もしっかり受けて。1年生にやるデザインの基礎的な授業などが、あと役に立ちます。

はい、授業もしっかり受けて、課外活動もがんばります！デザインのお仕事の現場も見ることができて、とても勉強になりました。

卒業生インタビュー

Q | 入学しようと思った理由について 1 | 教えてください。

札幌市立大学の特色であるOSCE(Objective Structured Clinical Examination)があった点です。OSCEは学生1名に対して教員2名、市民による模擬患者が1名で形成されるユニットの中で、判断力・技術力・マナーなどを評価する試験です。地域の方々に大学に来ていただき、患者の役を体験していただくことで、看護学部生が実践的に学ぶことができる機会があるところが1番の魅力でした。当時このような取り組みを行っていた大学は札幌市立大学ぐらいしか知りませんでした。

Q | 印象に残った授業、面白かった授業は 2 | ありますか？

面白かった授業は精神領域、精神看護学の授業です。特に入院してる方だとか、家でも精神に異常があって自分の意思とは関係のないことをしてしまったりだとか、そういった人に対して、どのように混乱させることなくかわりを持っていくかなどが学んでいて面白かったですね。

この辺りの分野の授業で得た知識は、私の卒業研究のテーマである「入院患者が亡くなった時の家族との関わり」に生かされました。入院しているときはだいたい体が悪くなったりすることが多いけれど、やっぱり人間って生きているものなので、心のケアも大事なんだなということをその授業で学んで、そこに着目したいなと思いました。4年生のゼミも精神領域のゼミを選びました。

Q | 学生時代にの思い出について 3 | 教えてください。

札幌市立大学YOSAKOIソーラン部として参加した、YOSAKOIソーラン祭りですね。元々人前で踊るような性格ではなかったとか、興味が無い・恥ずかしいという気持ちがあったんですけど、大学に入学して、新入生歓迎会で先輩方がよさこいを踊っているのを見て、「かっこいい!」と思って入って。そんな人間が大通公園のど真ん中で踊っていたくらいなので、ちょっといい意味で人生から外れたとか、それくらい思い出に残っていますね。

看護学部卒業
若本隆貴
さん

手稲溪仁会病院勤務

Q | 病院ではどんなお仕事を 4 | されていますか？

主な仕事は、消化器外科で働いているので、口・胃・腸などの手術をする患者さんの入院から退院までのケアをしています。手術前はお薬を飲んだり、ご飯などの管理をして、手術が終わった後のケアをしたりします。手術の直後などは全身麻酔などで動けないことなどがあるので、動けない人に向けてのサポートをします。退院に向けては、合併症などの予防をしつつ入院前の家で生活ができるように、リハビリなどの支援をします。

Q | 看護師になろうと思ったきっかけ、 5 | やりがいについて教えてください。

元々中学校くらいから、総合の時間などで将来の職業について考えたときに「人の役に立つ、かつ人に関わる仕事」をしたいなと考えていました。後は私の母親が看護師だったというのもあって、看護師のことについて聞く機会も多く、人とたくさんかわり、感謝される機会が多い仕事だと知り、中学生の頃から看護師を目指していました。一応夢は叶いましたね。(笑)
やりがいは、手術の後にサポートしていく中で患者さんのできることが増えていたり、入院前の状態に戻った時ですね。その時に患者さんも私たちに感謝してくださって、それが嬉しいですね。

Q | 看護の分野に興味のある高校生に 6 | 向けたメッセージ

看護師という職業を目指している時点で、人の役に立ちたいと思っている人がたくさんいると思います。実際に感謝されることが多くて「やってよかったな」と思えることが多いです。大学に入って、実習が大変だという話を聞くことが多いかもしれませんが、社会人になって働き出すと、感謝されることが働く原動力になるのだと実感しています。ぜひ看護師になれるように頑張ってください！



faculty of nursing



Sapporo
City
University



EDITOR'S NOTE

SCUZINE vol.07を手にとっていただき、ありがとうございます。この冊子は札幌市立大学(SCU)の学生が大学に関わるさまざまな人に取材し、その魅力をぎゅっと詰め込んだ情報誌です。誌面の構成から取材、記事、デザインまでをページごとに違う学生が行っていて、めくるごとにそれぞれの学生目線での「SCU人」の魅力が伝わることを目指しました。

私たち「SCU学生宣伝部おすし」は、情報誌の制作を初め、SNSの運営や学内ラジオ企画などを通して、SCUを初めて・もっと知ってもらうために活動しています。SCUで学ぶ私たちだからこそ伝えられる等身大の魅力を、学生自身の手で伝えたいという思いから、学生広報活動を続けてきました。この冊子を通してSCUやそれに関わる人の魅力と、それを伝えるSCU学生のエネルギーを感じ取っていただければと思います。

SCUZINE vol.07 企画進行・編集 デザイン学部3年 林 港人

MEMBER

デザイン学部三年	林 港人
デザイン学部三年	二本柳 彩季
デザイン学部二年	小川 こひな
デザイン学部二年	南部 深央理
デザイン学部二年	山本 愛心
デザイン学部二年	吉岡 里紗
デザイン学部一年	工藤 万依
デザイン学部一年	早坂 健太郎
デザイン学部一年	原田 晃輔
デザイン学部一年	本多 星翔

SCU 学生宣伝部

 おすし

制作 / 札幌市立大学 学生宣伝部OSCUSI(おすし)

発行 / 札幌市立大学 広報室
札幌市南区芸術の森 1 丁目
TEL:011-592-2346

@scu_oscusi



学生宣伝部Instagramにて
さまざまなSCU情報を
発信しています！

